



新潟県作業療法士会 副会長

門脇 高

(黒川病院)

40 周年記念式典の開催を 9 月に控え、私からも会員の皆様にメッセージを送りたいと思います。

一口に 40 周年と言ってしまうと単なる節目でしかないような印象を受ける方もいらっしゃると思いますが、40 年前に思いを馳せていただければまだこの世に生を受けていない会員も多いかと思ひますし、もし生まれていたとしても私を含めて作業療法士になった現在を想像できない方の方が多いのではないかと想像します。その様な黎明期から時代の様々なニーズを受け、大先輩方が現在までの士会の礎を作ってくださったおかげで、たくさんの会員の方々がそのバトンを受け継ぎ現在に至っております。現在、私が関わらせていただいている司法領域における刑務所ケアプログラム派遣事業も時代の流れを受けている事業の一つかと思ひます。皆様もニュース等でご存知かとは思ひますが、刑法が明治 40 年に制定以降初の刑の種類について改正を行い、令和 7 年 6 月より懲役刑・禁固刑の 2 種類の刑罰から拘禁刑へ一本化されております。令和 5 年から新潟刑務所からの依頼を受け始まった刑務所ケアプログラム派遣事業もその流れを受け、新たな形の関わりを模索し進めているところです。

このように作業療法が社会から求められる役割はその時代時代のニーズに応じて刻々と変化しており、我々作業療法士も時代に影響を受けながら変化していく必要があると言えるでしょう。変化を求められる一方、40 年前に作業療法士会が立ち上がったその時代から大事にバトンを受けている作業療法の源流の部分についてもこれからの作業療法や作業療法士に受け継いでいくことが現職の我々の義務であるとも考えております。

40 周年記念式典ではこれまで士会を支えてくださった関係機関の方々、士会の礎を作ってくださった先輩方にもたくさんいらしゃっていただく予定です。その様な節目の場にこれからの新潟の作業療法のバトンを受けていただく皆様にもご参加いただき、これまでの士会の活動を振り返り、そしてこれからの士会の未来について会員の皆さんと大いに語り合いたいと心より願っております。当日、会場で皆さんとお会いできることを楽しみにしております。